

# クリニカルパス／クリティカルパス活動への参加経験が 看護師のチーム医療に与える影響の検討

東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科 医療保健情報学コース  
樋口由布子

## 背景

クリニカルパス／クリティカルパス（以下パス）はKaren Zanderらにより開発されたケースマネジメントツールであり、ケアに関わる多職種が共同で作成し合意したケアのガイドラインである。Karen Zanderはそのパス開発と実施の効果の1つとして「より良いチームワーク」を挙げている。しかし先行研究によると、パス開発当初から期待されたチーム医療に対しては十分な効果が得られておらず、またそのパス活動工程も原則とは異なる形態となっている現状がみられている。

## 目的

パス活動に関わる看護師を対象に、多職種協働によるパス活動経験の有無がチーム医療に影響を与えるかどうか、アンケート調査を実施し、個人・施設背景と併せて分析する。本研究によりパス活動のありかたについて知見を得ることで、より効果的かつ効率的にパス活動が実施され、チーム医療の実現と医療の質向上を図ることが期待される。

## 方法

調査対象はパス導入施設に勤務する常勤の看護職員とした。対象者には、個人属性およびパス活動状況についての質問項目と、チーム医療に関連する項目の測定として先行研究より「チーム医療に対する認識」、「多職種チームによるエンパワメント」、「チーム医療の実践状況」に関する質問を準備した。また、施設への調査として、パス活動およびチーム医療に影響を与えると考えられる施設概要、施設のパス活動状況に関する質問項目に対し、パス委員長もしくはパスに関わる施設代表者が回答した。

## 結果

パス活動工程に多職種協働で深く関わっている「理想的パス活動群」に分類されたのは、調査対象者の10%未満であった。一方でパス活動工程に深く関わってはいないが多職種協働によるパス活動を実施していない「看護師中心パス活動群」は、その30%強を占めていた。これら「多職種協働パス活動経験」とチーム医療尺度点数との関係では、準備した全ての尺度に関して「低パス活動群」<「看護師中心パス活動群」<「理想的パス活動群」の順に点数が高く、それぞれに有意差がみられた。

他のチーム医療に影響する要因を考慮した重回帰分析の結果、「チーム医療に対する考え方」を説明するモデルの構成要素は、「職務年数」、「職場役割」、「院外参加」、「多職種協働パス活動経験」の4項目であった。

## 結論

チーム医療への効果を期待したパス活動においては、多職種協働で実施することが重要であるが、看護師の「多職種協働パス活動経験」は不十分であり、必ずしもそれを期待できる状況にないことが示唆された。また、「多職種協働のパス活動経験」は他のチーム医療に影響を与える因子を考慮しても、看護師の「チーム医療に対する認識」に影響を与えていた。Karen Zander らの提唱したパス活動による「より良いチーム医療」への効果を期待するならば、その活動プロセスにおける多職種協働のパス活動の在りかたについての具体的対策を検討する必要がある。

## キーワード

クリニカルパス/クリティカルパス、チーム医療